

## 1. 活動報告

2011年度のリテラシー研究会の活動について以下に報告する。2011年度も2010年度同様に研究例会開催、メーリングリストを通じた情報交換を行った。なお、2010年度の報告を寄稿したのち2011年3月11日に東日本大震災が発生したため、3月12日に予定していた「第二回リテラシー研究会OB/OGシリーズ」を中止した。2011年度の後半は、現役生によるカンボジアスタディーツアーの企画が立ち上がり、2012年3月実施をめざして毎火曜日に勉強会を続けている。

### 1. 例会などの活動記録(2011.4～2012.1)

2011年度に開催した例会は以下のとおり、1回である。2011年度の研究例会活動を活発に行えなかった理由は、3月の東日本大震災の影響により関係者の年間スケジュールが大きく変更されたり、被災地への支援活動に力がそそがれたりしたために、例会活動を企画することが難しかったためである。

日時	タイトル	発表者
June 3, 2011 教育研究所公開講演	China's Aid to Africa: Trend, Impact and Sustainability	Dr. Kenneth King (University of Edinburgh)

### 2. カンボジアスタディーツアー関連活動

今年度は秋学期と冬学期に毎週火曜日19時から21時に例会を持った。

例会の前半を識字問題に関する勉強に充て、後半をカンボジアスタディーツアーのための勉強会に充てた。前半の勉強はリテラシー研究会OGで教育研究所研究員の小林和恵氏の報告書「非識字問題への挑戦」―国際社会の取り組みとフィールドからの活性化の試み―を取り上げて識字問題の現状を学んだ。

後半のスタディーツアーに関する勉強会では、カンボジアの宗教・文化・歴史について調べた。「世界寺子屋運動」のカンボジアにおける活動については「なぜ、識字か」の第二部によって理解を深めた。11月6日に行われた日本ユネスコ協会連盟の「寺子屋会議」に参加して、ラオス、カンボジア、アフガニスタンにおける活動について、現地で働いている人たちの生の声を聞く貴重な機会を得た。

スタディーツアーは2012年3月12日から25日の予定で、ブノンペンとシエムリアップで識字教室、子供のための移動図書館、小学校、中学校、国立大学、私立大学などの現状を見学する。

### 3. 卒業生の活動

2011年4月から2011年12月までの間に、リテラシー研究会のメーリングリストには、講演会、国際シンポジウム、ワークショップ、研究会開催に関する情報、海外赴任・帰国の情報、現地での活動から得られた知見・抱負、就職・退職などの近況報告が約20件投稿された。特にこの年度は東日本大震災の影響を受けて、3月には震災関連、福島原子力発電所事故による放射能汚染の情報や意見が頻繁に寄せられた。その後、開発途上国における識字の問題と、震災後の被災地における教育の充実の問題の関連についての意見「南相馬の教育の現状を見ると、私やリテ研のみんながかつて、そして現在、それぞれが出会った途上国で直面した問題のすべてが含まれているような気がします。教育を受ける権利

を守るため、保証するために、個人が払う犠牲、国家が担う責任の大きさを改めて認識し、途上国も日本も関係なく、とにかく「学びたい」と願う人にどんな教育のサービスを提供できるのか、考えなくちゃならないことは同じなんだと感じます（2011年6月12日 武藤小枝里）」「ご両親を励まし盛り上げて、それを通して地域のために私たちに何かできることがあればお知らせください。武藤さんが云われたように途上国も発展した日本も市民社会は共通の課題を抱えており、このレベルの喚起こそが将来に向けた解決、復興の鍵を握っていると思います（2011年6月13日 千葉泉弘）」や、日本ユネスコ協会連盟による教育支援の依頼が掲載された。

2011年度のメーリングリストから拾った卒業生の現在の活動先で海外のものは、ミャンマー、カンボジア、コンゴ民主共和国、ガーナなどである。

## 11. 今後の活動計画と課題

リテラシー研究会の今後の活動課題は、震災の影響で11年度に進めることができなかったホームページの改訂と活性化およびメーリングリストの管理の見直しを行うことである。さらに、現役生と卒業生、卒業生同士が交流し、切磋琢磨する機会として土曜日開催のOB/OGシリーズを軌道に乗せることである。

[リテラシー研究会 HP]

<http://subsite.icu.ac.jp/org/liteken/>

### Overview of Literacy Seminary:

The ICU Literacy Seminary is managed by participants including advisors and students all lead by Professor Akihiro Chiba, a former professor at ICU and advisor of the IERS. Weekly meetings are held after class on various topics such as literacy, informal education, and education and development. These meetings are continued to be held even after the retirement of Professor Akihiro Chiba. The activities include: Lectures from graduates and specialists working inside and outside of ICU, research presentations of senior thesis and master dissertation, and reading discussions. Participants gather at room 357 of the ICU education research building. In 1996, "Why literacy?" was published from the IERS, originally taken from the activities of the literacy seminary. The distinct characteristics of the activity are as follows: The openness to students and researchers working inside and outside of ICU and those who practice developmental education while Professor Akihiro Chiba plays the central role of the Seminary, the graduates have become active players in the field which create opportunities for the interconnection of current students to the actual fields, and the continuing increase of feedback from the fields where actual education development is active. (from 『Publications 1-A ICU: Educational Studies vol. 50』 2008.3 p.266)

鈴木 庸子  
SUZUKI, Yoko